

2019 年度事業報告書
(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

事業の状況

1. 助成事業

情報科学の国際的研究交流を推進することを目的とした、研究者海外派遣助成、外国人研究者交流助成及び特定分野研究交流助成の実施状況は以下のとおりである。

1.1 研究者交流助成

(1) 研究者海外派遣助成

将来を担うべき有能な若手研究者を対象に、海外で開催される情報科学に関する国際研究集会派遣のための渡航費及び滞在費の一部を助成した。

①募集・選考

助成募集要項及び申請書は財団ウェブページに掲載するとともに、大学等学術研究機関の情報系関連部署 208 ヶ所に募集案内を郵送した。2019 年 4 月 1 日～5 月 31 日まで公募したところ、45 件の申請があった。

6 月 17 日開催の選考委員会において慎重に審議し、内定 1 件を含む 6 件を採択とし、他に補欠 1 件を選考した。

②決定・交付

選考委員会の選考結果を受け、理事長が 2019 年度研究者海外派遣助成金交付対象者を決定し、下記表のとおり 6 件に助成金を交付した。

助成件数 6 件、 助成金交付総額 870,000 円

氏名・所属	参加国際会議	助成金額
Otgonpurev Mendsaikhan 名古屋大学大学院情報学研究科 博士後期課程 2 年	IEEE 43rd Annual Computer Software and Applications Conference - COMPSAC2019 (アメリカ)	16 万円
須川 萌 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 修士 2 年	ACM SIGGRAPH2019 (アメリカ)	16 万円
阿久津 康平 筑波大学大学院システム情報工学研究科 博士前期課程 2 年	14th International Conference on Queueing Theory and Network Applications - QTNA2019 (ベルギー)	18 万円

Matthew James Holland 大阪大学産業科学研究所 知能推論研究分野 助教	European Conference on Machine Learning - ECML PKDD 2019 (ドイツ)	18 万円
氏名・所属	参加国際会議	助成金額
森山 大樹 山口大学大学院創成科学研究科 博士前期課程 2 年	26th IEEE International Conference on Image Processing - ICIP 2019 (台湾)	7 万円
三橋 拓斗 東北大学大学院工学研究科 修士課程 1 年	IEEE Global Communications Conference - GLOBECOM 2019 (ハワイ)	12 万円

(2) 外国人研究者交流助成

将来を担うべき有能な外国人研究者又はそれを受け入れる研究者を対象に、日本で開催される国際研究集会参加、又は日本の研究機関において共同研究を行うための渡航費及び滞在費の一部を助成した。

① 募集・選考

助成募集要項及び申請書は財団ウェブページに掲載するとともに、大学等学術研究機関の情報系関連部署 208 ヶ所に募集案内を郵送した。2019 年 4 月 1 日から 5 月 31 日まで公募したところ、10 件の申請があった。

申請者別： 受入れ者による申請 1 件 外国人研究者本人による申請 9 件

目的別： 調査・共同研究目的 7 件 国際会議参加目的 3 件

6 月 17 日開催の選考委員会において慎重に審議し、1 件を採択した。

② 決定・再選考・再決定・交付

選考委員会の選考結果を受け、理事長が 2019 年度研究者海外派遣助成金交付対象者を決定し、下記表のとおり 1 件に助成金を交付した。

助成件数 1 件、助成金交付額 160,000 円。

外国人研究者氏名・所属	参加会議	出発地	助成金額
Jonathan Gratch 南カリフォルニア大学 クリエイティブテクノロジー研究所 教授	7th International Conference on Human- Agent Interaction - HAI2019	アメリカ	16 万円

1.2 特定分野研究交流助成

ソフトウェア分野における情報技術の将来を見通した研究課題の提言を行うことを目的に、産学の研究者が協同で行う調査研究交流に対する助成であるが、2017 年 6 月の全体報告会后、本事業については休止している。

2. 競技会開催事業

将来を担う情報科学の若手研究者の育成のために、情報技術に関する競技会の開催及び関連する事項について以下のとおり行った。

(1) プログラミングコンテスト(ICPC2019)開催

競技開催費 13,948,094 円。

ICPC Foundationが年1回、世界的規模で開催している国際大学対抗プログラミングコンテスト(ICPC)のアジア地区予選としてICPC2019横浜大会を慶應義塾大学と共同で開催した。

①経緯

開催協力校を慶應義塾大学が務め、ICPC2019 横浜大会を行うことを財団 ICPC 運営委員会の決議を経て理事長が決定した。

②実施概要

日時： 2019 年 11 月 16 日～18 日

場所： 横浜産貿ホール(神奈川県横浜市中区山下町 2 番地)

神奈川県民ホール(神奈川県横浜市中区山下町 3-1) 他

主催： ICPC 横浜大会実行委員会、慶應義塾大学、(公財)情報科学国際交流財団

実行委員長： 高田眞吾(慶應義塾大学教授)

審判長： 前原貴憲(理化学研究所)

内容： 大学院、大学及び高等専門学校の同一校の学生 3 人が 1 チームを構成し、コンピュータプログラミングの正確さと速さを競うコンテストで、世界大会出場のための選抜大会として、世界各地で地区大会が行われる。本大会は 2020 年 6 月に開催予定の世界大会のアジア地区予選に該当した。まず、2019 年 7 月 12 日にインターネットを利用して日本国内予選を実施し、495 チームから 55 チームを選抜した。台湾、韓国、シンガポール、インドネシア、中国、香港の 10 チームを加えた計 65 チームが横浜産貿ホールで一堂に会し、2019 年 11 月 17 日に本選コンテストを行った。国際大会のため、出題、進行等についてはすべて英語で行い、5 時間にわたるコンテストの後に、審判団からの問題解説、表彰式のほか、交流を目的とした懇親会を行った。

また、コンテストの翌日に、協賛企業見学において ICPC 参加経験者やエンジニアスタッフの話を聞くなど、参加者の見聞を広める機会を設けるとともに交流促進を図った。

参加数： 国内予選(2019 年 7 月 12 日インターネットを利用して開催)・・・ 101 校 495 チーム

横浜大会本選・・・ 国内 42 校 55 チーム、海外 10 校 10 チーム 計 52 校 65 チーム

結果(大学順位)： 1 位北京大学、2 位東京大学、3 位香港中文大学

日本の大学は、他のアジア地区予選での結果を併せ、東京大学、会津大学、筑波大学及び京都大学の 4 チームが 2019 年 6 月開催予定の世界大会への出場権を得た。

(2)海外における ICPC 地区大会への派遣

派遣補助 4 チーム、計 767,190 円。

国内予選 1 位の東京大学(UT a.k.a Is)、7 位東北大学(Aobayama_dropout)を 2019 年 11 月 3 日

開催のバンコク大会(タイ)へ派遣し、東京大学チームは2位、東北大学は19位の成績であった。予選 10 位会津大学(UKUNICHIA)は 11 月 10 日開催のクアラルンプール大会(マレーシア)に派遣し、2 位となった。予選 3 位の京都大学(Heno World)は 12 月 16 日開催のダナン大会(ベトナム)に派遣し、1 位となった。

(3)ICPC に関わる予備練習会の開催

過去に行われた ICPC への参加経験者(OB/OG)の協力のもと、予備練習会を行った。

本選参加チーム全体のレベル向上、競技プログラミング界全体の活性化を目標に、2019 年 9 月 14 日～16 日にわたり国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて横浜大会に向けた強化合宿を行った。

参加者：選手 67 名(15 大学)、スタッフ 10 名計 77 名 開催補助費：200,000 円

(4)ICPC2020 の開催

2020 年 2 月 2 日の ICPC 運営委員会において、本年度に引き続き、開催協力校として慶應義塾大学を選定、大会委員長に高田眞吾教授(慶應義塾大学)、審判長に前原貴憲氏(理化学研究所)をそれぞれ選任し、2020 年 11 月 7 日～9 日に横浜産貿ホール・ワークピア横浜(神奈川県横浜市)において ICPC2020 横浜大会を開催することについて理事長が決定した。

以上